

吹田市水道施設マスタープランについて

1. 策定の趣旨

今後、多くの水道施設・管路が老朽化し、次々と更新期を迎える。マスタープランは、これまで築いてきた水道システムの再構築が必要となる中で、およそ 40 年先の吹田地域の水道の将来像を描いたもの。この将来像を市民と共有し理解と協力を得ながら、一歩ずつ着実に事業を進めることで、より良い水道システムを次世代に引き継ぐことができる。

第 8 次水道事業経営審議会「将来構想を描くにあたっての提言」より
「本市においては全市域が市街化され、充実した社会資本があることから、水需要に合わせてダウンサイジングするという考え方にとられることなく、これからの広域的な観点から現在の水道ネットワークをより充実させ効果的に再構築していく方向」を提言する。

2. マスタープランの構成

- (1) 施設の現状
- (2) 新たな課題と背景
- (3) マスタープランの位置づけ等
 - ・位置づけ:施設整備(再構築)の最上位計画
 - ・理念:「地域の水道として、高い安全性に基づいた最良にして最適な水道システムへの再構築」
 - ・基本となる考え方: 防災力の強化、安心安全の品質、環境保全の推進、地域連携の追求
- (4) 5 つの方針と将来像

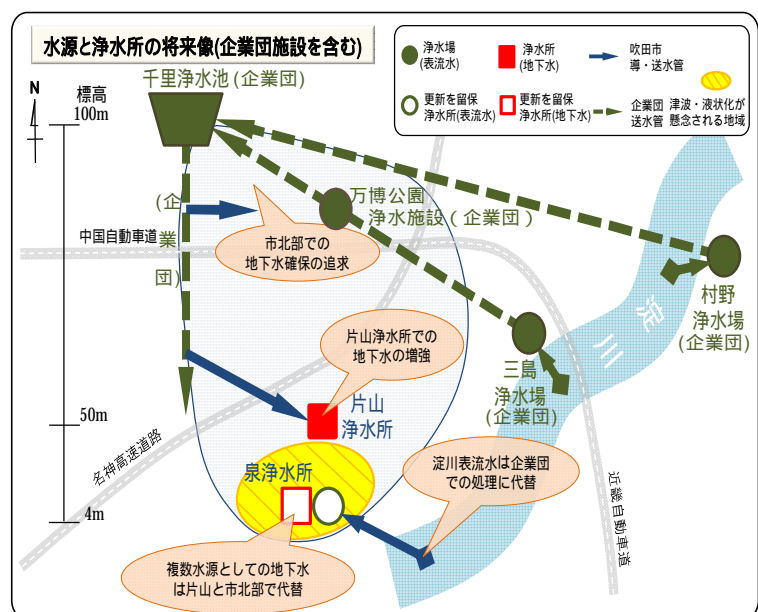
3. 5 つの方針

(1) 災害リスクを軽減する浄水施設の再構築と地下水確保

【水源】浄水所

- ・琵琶湖淀川水源(府域水道の 9 割)に対する複数水源としての地下水の確保を重視。
- ・地震災害の脆弱性(地盤、液状化、津波)を踏まえた浄水施設整備。

泉浄水所の処理施設については抜本的な更新ではなく、必要な維持保守に留める。
片山浄水所での地下水確保と処理施設の更新、施設の再構築を図る。
リスク分散としての市北部での地下水確保を目指す。

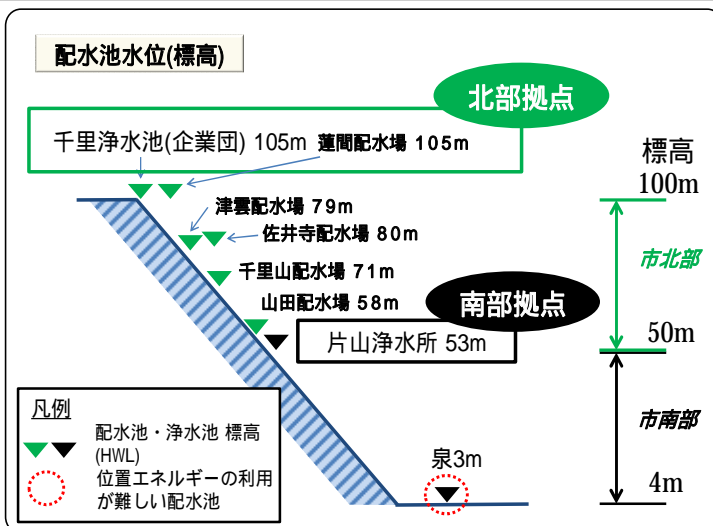


(2) 地形をいかす自然流下を基本とした送配水施設の再構築

【配水池】【配水区域】

- ・市域の北と南で約 100m の高低差。
- ・環境面及び危機管理面から自然流下の配水方式を基本とする。
- ・企業団による千里浄水池の耐震化・千里幹線の二重化、広域連携による施設の共同化の取組み。

南部地域の拠点を片山浄水所、北部地域の拠点を蓮間配水場付近と想定した施設の整備。
企業団や他市との施設の共同化を視野に入れた再構築。



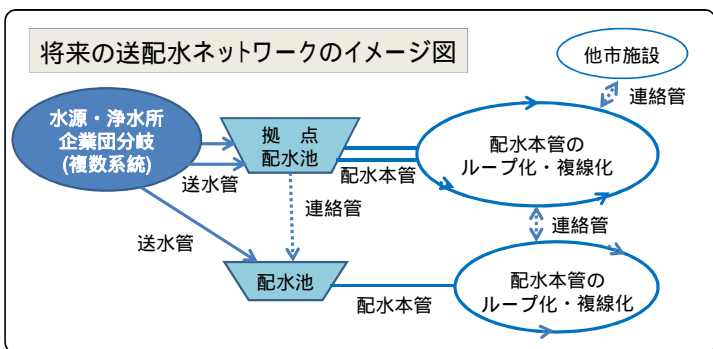
(3) 拠点配水施設（片山浄水所・蓮間配水場付近）を中心とした送配水ネットワークの構築

【送水管】【配水本管】

- ・リスク分散としての送水管及び配水本管のループ化・複線化を図る。
- ・拠点施設を中心に、補完施設・区域を明確にした管路整備を進める。



吹田市水道部
イメージキャラクター
すいすいくん



(4) 給水サービスの質的向上につなげる配水支管網の整備

【配水支管】

- ・どのような建物や給水方式においても、基本となる給水サービス（水質・水圧・水量）で満足していただける配水支管網を整備する。

(5) 災害時にも命の水を絶やさない応急給水機能の向上

【災害対策施設】

- ・災害時においても、「ここに行けば必ず水がある」と安心していただける応急給水施設の整備(耐震性貯水槽、可搬式浄水装置の配置など)を図る。

4. マスタープランに基づき現在進行している主要な事業等

(1) 北部拠点を中心とした施設整備

- ・企業団千里浄水池を中心とした、企業団と隣接3市（豊中市・箕面市・吹田市）による共同施設建設の検討
- ・今後、老朽化が進む蓮間配水場の更新を不要とする企業団千里浄水池及び豊中市柿ノ木配水場との施設の共同化

(2) 南部拠点を中心とした施設整備

- ・片山浄水所の水処理施設の膜ろ過方式への変更及び地下水の増強
- ・片山浄水所と泉浄水所を結ぶ連絡管 1000 mmのシールド工法による整備